

平成二十年度 大学院人文科学府修士課程第1期入学試験問題
(中国哲学史)

※ 解答は答案用紙を横(受験番号欄を右位置)にして、縦書きで記しなさい。

一、次の項目から五つを選び、知るところをそれぞれ三〜四行で記しなさい。

- ① 鄭玄 ② 嵇康 ③ 王陽明 ④ 荻生徂徠 ⑤ 山崎闇斎 ⑥ 三浦梅園
- ⑦ 淮南子 ⑧ 五經正義 ⑨ 孟子字義疏証 ⑩ 玄語 ⑪ 古史通
- ⑫ 格物致知 ⑬ 理氣說 ⑭ 知行合一 ⑮ 加上說 ⑯ 古学

二、朱子の鬼神論の内容とその特色について説明した上で、そこから派生した思想史上の諸問題に関する近年の研究状況について論述しなさい。

三、次の文章を書き下し文に改め、口語訳しなさい。(王粲「爵論」による)

依律有奪爵之法。此謂古者爵行之時、民賜爵則喜、奪爵則懼、故可以奪賜而法也。今爵事廢矣、民不知爵者何也。奪之民亦不懼、賜之民亦不喜、是空設文書而無用也。今誠循爵、則上下不失實、而功勞者勸、得古之道、合漢之法。以貨財爲賞者、不可供、以復除爲賞者、租稅損減、以爵爲賞者、民勸而費省、故古人重爵也。漢文選卷五一

爵自一級轉登十級而爲列侯、譬猶秩自百石轉遷而至於公也。而近世賞人者、皆不由等級、從無爵封(爲)列侯、原其所以、爵廢故也。司馬法曰、「賞不論時、欲民速觀爲善之利也。」近世爵廢、人有小功無以賞也、乃積累焉、須事足乃封侯、非所以速爲而及時也。上觀古昔、高祖功臣及白起、衛鞅、皆稍賜爵爲五大夫、客卿、庶長以至於侯、非一頓而封也。夫稍稍賜爵、與功大小相稱而俱登、既得其義、且侯次有緒、使慕進者逐之不倦矣。太平御覽一九八。北堂書抄四六。

四、次の文章は、伊藤東涯(長胤)が張載の語について論じたものである。全文を書き下し文に直した上で、論旨を記しなさい。『古今学変』による)

張子曰。心統性情者也。

胤按。張子此語。朱子之書。常稱述之。後世學者所遵守以爲正訓者也。朱子解其義云。統是主宰。性者心之理。情者心之用。

心者爲性情之主。又曰。心猶將也。性猶在營之軍。情猶臨陣之軍。皆將統之。則心爲性情之主可見矣。蓋未堯之体爲性。已堯之用爲情。而心則通未堯已堯而言。故曰。心統性情。今審張子言性諸語。則曰。合虚与氣有性之名。又曰。天地之帥吾其性。

此本出孟子所云志者氣之帥也。然則張子所謂性者。謂人稟天地之氣以生者。而不就理說也。可知矣。大抵心者思慮運用之主。性者稟受之名。情者則就心之運用。指其不涉乎安排偽飾者而言。蓋人之実心也。故曰存心養性。曰尽心知性。而情則不必用工夫。文字之異同。自可辨知。然則心統性情者。殆亦非古之義矣。